

# 社会保障・税一体改革 の政治過程分析

香取照幸著

高市政権下で社会保障と税の改革論議が始まった今だからこそ読むべき時宜にかなった本が出版された。

著者は2012年に関連法が成立した「社会保障・税一体改革」に官僚の立場から携わった。消費税率を5%から上げる一方、社会保障の機能強化と財政健全化の

同時達成を目指したのがこの改革だ。負担増という不人気政策をいかに政治が超党派で実現したか。政権交代もある紆余曲折の政策・政治過程を克明に描いた。

格差是正の機能を持つ社会保障は政治と密接な関係にあり、ゆえに政争の具にしてはならない。現在の改革論議に関わる政治家や、若い世代に特に読んでほしい一冊だ。（日本経済新聞出版、4620円）（律）

..... 記者が選ぶ .....